

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 3392 号	氏名	李 殷先
論文審査担当者	主査 内田 直樹 教授 副査 矢持 淑子 教授 副査 本田 一穂 教授		
<p><b>論文題名</b> : Increased expression of human herpes virus 6 receptor CD134/OX40 in skin lesions of patients with drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms (薬剤性過敏症症候群患者の皮膚病変部におけるヒトヘルペスウイルス-6 細胞受容体マーカーCD134/OX40 の発現亢進)</p> <p><b>掲載雑誌名</b> : The Journal of Dermatology doi: 10.1111/1346-8138.16575. Online ahead of print 2022 年掲載</p> <p>李らは、DIHS の皮膚病変部に浸潤する CD4+細胞における CD134 発現、重症度との関連性を検討し、DIHS の病態形成における HHV-6 再活性化の意義を明らかにすることを目的に研究を行った。1999 年 1 月～2020 年 1 月に本学皮膚科学講座で生検された皮膚検体 (DIHS 22 症例、多形紅斑 (EM) 11 症例) を対象とし、免疫組織化学染色、蛍光抗体二重染色法を施行。陽性細胞比率を定量化し、統計学的な解析を行った。</p> <p>結果、EM に比較して DIHS 症例で真皮内に CD134+ 細胞が多く発現している事や、DIHS 患者における CD134+ CD4 T 細胞発現率 (36.8% [61.8, 17.7]) は、EM 患者 (7.9% [13.4, 3.9]; <math>p=0.0083</math>) よりも高く、DIHS/DRESS 重症度スコアと CD134+ CD4 T 細胞発現率の間にも相関があることが示された (<math>p=0.0272</math>)。重症度スコア 4 未満の軽度または中等度群は、重症度スコア 4 以上の重度群 (59.9% [112.4, 41.6]; <math>p=0.0035</math>) よりも CD134+ CD4 T 細胞発現が低く (22.4% [31.9, 6.2])、DIHS 群では、HHV-6 の再活性化を示した患者は、非再活性化患者より CD134+ CD4 T 細胞発現率が高かったが統計学的な有意差は示されなかった (47.0% [79.1, 23.7])。以上より DIHS 群での CD134+CD4 T 細胞発現率は有意に高く、重症度スコアとの正の相関関係が示された。よって、皮膚病変部の CD4+細胞における HHV-6 受容体陽性細胞比率の増加は、DIHS における HHV-6 感染の感受性が高まっている事が示唆された。</p> <p>本論文は本学大学院学位論文 (博士) 審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p>			

(主査が記載)